

学生アンケート結果から見た英文サイトとホームページの活用について

On the Use of English Websites and Homepages:

A Note Based on Questionnaire Results

林 弘美

Hiromi Hayashi

英語・英語学研究室

E-Mail:hhayashi@my-pharm.ac.jp

1. IT利用による学習支援¹⁾

明治薬科大学では、サイバーキャンパスをはじめとした IT 利用の教育を充実させることにより、教育における双方向性の強化にも努めている(植沢 他(2008)、和田(2008)、林(2007, 2008a, b)等参照)。本稿では、本学学生の一部に対して行った簡単なアンケートの結果を踏まえ、IT を利用した学習支援策の 1 つとしてブログ型ホームページを活用する試みについて報告する。

2. インターネットと英文サイト等の利用調査

2.1 調査内容とその結果

2008 年 12 月に、本学学部学生のうち 148 人に対し以下のような簡単なアンケート調査を行なった。²⁾ここでは、調査結果(二重下線の部分)も添えて示す。

インターネットと英文サイト等の利用調査

この無記名アンケートは、私の研究・授業への活

¹⁾ 本稿は、2009 年 2 月 19 日に明治薬科大学で行なわれた“マルチメディアを基礎にした教育発表会(MBI 発表会)”における口頭発表に加筆したものである。発表に際しコメントを下された皆様に感謝を申し上げる。なお、“IT コンソーシアム 2008”におけるポスター発表(林(2008b)参照)およびその報告書の内容と重複する部分がある。

²⁾ 調査対象となった学生は、筆者が担当する必修の英語の授業「薬学英語 B」(2 年生対象)3 クラスおよび「総合英語 B」(1 年生対象)1 クラスの履修者である。

用以外には利用しません。

<質問は、選択式です。1 つの回答を選んでください。>

回答者数: 2 年生 A グループ 38 人 / B グループ 32 人 / C グループ 37 人 / 1 年生 41 人 計 148 人(以下、数字は 4 グループ別の回答者数を示す。)

1. インターネットの利用は、大学と学外(自宅を含む)のどちらが多いですか。

- a. 大学 2/5/6/2
- b. 学外 30/23/25/35
- c. 大学と学外で同じくらい利用する 6/3/5/1
- d. 大学でも学外でもほとんど利用しない 0/1/1/3

2. 英語で書かれたサイトの利用は、大学と学外(自宅を含む)のどちらが多いですか。

- a. 大学 18/12/15/11
- b. 学外 9/6/4/7
- c. 大学と学外で同じくらい利用する 1/1/1/1
- d. 大学でも学外でもほとんど利用しない 10/13/17/22

3. ポッドキャストというのを知っていますか。

- a. 知っていて利用している
4/3/3/1
- b. 知っているが利用していない
19/6/5/10
- c. 知らない 15/23/29/30

4. iPod 等のMP3 音楽プレイヤーを持っていますか。

- a. iPod を持っている
13/15/19/22
- b. iPod 以外のMP3 音楽プレイヤーを持っている 13/10/7/5
- c. MP3 音楽プレイヤーのようなものを持っているが、本当にMP3 音楽プレイヤーかどうかわからない
3/0/2/4
- d. MP3 音楽プレイヤーのようなものを持っていない 8/7/8/9
aとbの両方に 1/0/1/1

ご協力ありがとうございました。

2.2 考察

2.1 に示したアンケートの結果に関し、ここでは3点を指摘する。まず第1に、インターネットの利用は学外からが多いことがわかる。第2に、英文サイトの利用は学内が多い。ただ、先に述べたようにインターネットの利用は学外が多いこととあわせて考えると、英文サイトの利用は少ない、ということになるであろう。第3に、ポッドキャストについての情報は広まりつつある状態であると思われる。

以上を考え合わせると、学外でのインターネット利用の際に英文サイトも利用しやすくするための支援を行なうと、学生の自発的な英文サイト利用につながる可能性がある。また、将来的にはiPod等のMP3音楽プレイヤー及び携帯電話を利用した英語学習を支援することも有効であろうという見通しがある。

3. 学習支援法の比較

教育の基本はあくまでも授業であり、授業では毎週確実に担当学生に一定の内容を伝えることができるわけであるが、時間数が限られているという制約がある。それを補完する手段として、学内LAN(明治薬科大の場合“学生共通”)を利用することができるが、その場合は学内からしかアクセスできず、また、ファイル構成も複雑なものとなっている。明治薬科大のサイバーキャンパスの場合には、学外からもアクセスできるが、ID・パスワードによる認証機能があり、情報が保護される反面、参照したいファイルを開くまでに何段階かを経ることになる。また、サイバーキャンパスの場合、動画のストリーミング配信等に優れている反面、現段階では文字情報中心の文書(Word文書等)の閲覧には対応していない。

それに対し、インターネット上のホームページを利用する場合には、インターネット環境が整っていれば学内・学外を問わずアクセスでき、また、携帯電話からアクセスすることも可能である。ただし、ホームページの場合は、そのままでは情報保護機能はないため、発信する情報の内容に注意を払う必要がある。

今回の調査の焦点となった、学外でのインターネット利用の際の自発的な英文サイトの活用を促すという目的のためには、教員のホームページを利用することが簡単であると思われる。いずれにしろ、伝えたい内容と対象に応じ、授業とそれ以外の手段(学内LAN・サイバーキャンパス・ホームページ等)を使い分ける必要があるだろう。

4. ホームページで伝える内容と対象

4.1 内容

各教員が担当する授業・学生により、授業の補完や授業以外の学習支援として必要となる内容が異なるはずである。筆者の場合は、授業の補足、定期試験関係の情報、参考図書の紹介、参考になるインターネット上の情報、学生への連絡事項(語学検定試験の実施予定等)などをホームページ上に掲載していきたいと考えている。

例えば、定期試験に関し、特に授業では直接扱っていない応用問題等について、後日ホームページ上で情報を掲載することは、試験を受けた学生にとって参考になると思われる。そして、それは同時に次の学期以降に試験を受けることになる学生にとっても、勉強する上でよい目安となるはずである。

4.2 対象

情報を伝えたい対象は、担当授業を履修中の学生はもちろんであるが、かつて授業を履修していた学生やオフィスアワー等に学習相談に訪れる学生も含む。大学カリキュラム上では当該科目および関連科目の単位を履修し終えた学生が自発的に学習することを支援する上でも、新たな情報・話題を適宜知らせる手段としてホームページは有効であると思われる。逆に、まだ授業を履修していない学生にとっても、上に述べた試験情報も含め、授業内容の参考になる面があるはずである。

また、学生に伝えたいことをネット上にまとめて示すことは、教員自身のためにも便利な面がある。例えば、オフィスアワーに学習相談に訪れた学生に対し、相談内容が既にホームページにまとめてあればすぐに情報を伝えることができる。また、授業で簡単に説明した後に「より詳しい内容はホームページに載せている」と伝えることにより、興味を抱いた学生に詳しい内容を知らせることが容易になる。さらに、電子メールで質問が寄せられた場合に、その回答に相当する内容がホームページ上に掲載されていれば、URL を添えて返信すればよい。質問者はメール内の URL をクリックするだけで回答が得られ、教員側は次回同じ質問が寄せられた場合にも同様に対応できる。

学内 LAN ではなくインターネット上に公開している情報は、学外者の参考になることもあると思われる。

このように、インターネット上に情報を蓄積していくことは、現在授業を履修中の学生、履修を終えた学生、その後履修予定の学生、そして、教員自身や学外者にとっても、教育・学習上効果をもたらす点が多いはずである。

5. ブログ型ホームページの利点

ホームページの作成は、専用ソフトなどを利用して各人が自由に行うことができるが、通常の教員にはそれ程の時間は取れないと思われる。また、適宜情報を追加するためには、ホームページの更新が容易になっていなければならない。その点、近年使用が広がっているブログ形式を用いると、作成者にとっても利用者にとっても便利な面がある。

5.1 作成者にとって

ブログは、その特徴として記事の追加が容易であることから、作成者は順次内容を増やしていく手法をとり、差しあたり伝えたい内容をまとめた後、必要に応じて後日追加していくことができる。逆に言えば、最初から全てを完成させたホームページを立ち上げなくてはならないと考えるにすむことになり、ブログを書きながら形式を整えていくつもりで気軽に情報発信を始められるのである。

記事の追加・更新が容易であることは、ホームページに双方向性を持たせやすいという点でも重要である。記事に対するコメントを受け付ける機能を持つブログでは、簡単に質問や感想等を書き入れることができるようになっており、またそれに返信することも容易である。それ以外にも、授業等で出た質問に対する回答の記事として追加していくというように、学生の反応に応じて随時情報を加えることができる。メールによる質問を受けた場合にも、その内容と回答をブログにも載せていくことにより、多くの学生に対して必要な情報を伝えることが可能となる。

ブログには、アクセス数を表示するカウンター機能やより詳細なアクセス解析機能を持つものが多く、実際にどのように利用されているかを確認することができる。設定方法は簡単でありながら活用度は高いと思われる。

5.2 利用者にとって

ブログ自体の仕組みとして、記事のカテゴリー別の表示、ブログ内検索機能等が備わっているものも多い。利用者が、ある内容のものに絞って情報を得た

い場合には、カテゴリー別の表示に切り替えればよい。³⁾ また、ある特定の内容の記事を探したい場合にはブログ内検索を行うことができる。

5.3 まとめ

インターネット上に様々なブログが開設されており、教育現場にそぐわない内容のものもあるが、仕組み自体は利用しやすいものとなっている。ブログの利点に目を向けて、教育に活用していくことが可能であろう。

6. おわりに

本稿では、学生のインターネット利用状況に関する簡単なアンケートの結果に基づき、自発的な英語学習支援策の1つとしてブログ型ホームページを活用する場合について考察を行なった。本稿の事例は、ホームページの活用という観点から、英語学習以外にも当てはまることがあると思われる。他の支援策との併用も含め、今後ともより効果的な教育活動を行なっていきたいと考える。

引用文献

- 植沢芳広他 (2008) 「サイバーキャンパスコミュニケーション機能」私立大学情報教育協会 平成 20 年度教育改革 IT 戦略大会における口頭発表. 2008年9月3日.
- 林 弘美 (2007) 「英語の授業および自発的学習のための英文サイト」『明治薬科大学研究紀要』37, 70 - 73.
- 林 弘美 (2008a) 「英語のリスニング学習について --ポッドキャストとオーディオブックの利用」『明治薬科大学研究紀要』38, 81 - 87.
- 林 弘美 (2008b) 「自発的学習支援のために -- ブログ型ホームページの試み」(ポスター発表) IT コンソーシアム2008 (於: 明治薬科大学). 2008年10月18日.
- 和田義親 (2008) 「FD に対応したサイバーキャンパスの在り方」IT コンソーシアム2008 (於: 明治薬科大学). 2008年10月18日.

ブログ型ホームページの URL 例

<http://hello.ap.teacup.com/hiromih/>

³⁾ 作成者が記事をカテゴリー化した上で随時追加していくことを前提とする。